

2025 年日本国内及び日系海外の ボンド磁石生産・需要動向

JABM企画委員長
戸田工業(株)
脇本 直樹

1. 全体感

2025年の日本国内におけるボンド磁石生産は、ここ数年で底となった2023年からやや回復した2024年の水準をほぼ維持し、大きな変動のない一年であったと推測します。新型コロナウイルスや半導体不足といった混乱が沈静化した一方で、中国の景気減退や米中貿易摩擦の再燃、さらにトランプ政権による関税政策の見直しなど、外部環境の不確実性が引き続き市場に影響を与えています。これらの要因により、2025年のボンド磁石全体としては2024年対比で横ばい傾向だったと考えられます。

ボンド磁石を取り巻く環境として特に大きかったのは、2025年4月に中国が発表したレアアース元素の輸出規制強化、そして2026年1月に中国商務省が対日輸出規制を追加的に強化した動きです。これによりレアアース依存度の高い日本のボンド磁石メーカーは、原材料調達の不透明感が増し、コスト上昇や供給リスクへの対応を迫られています。特にネオジム系材料を使用する高性能ボンド磁石では影響が顕著で、在庫確保や代替材料の検討など、各社が対応策を急いでいる状況です。

一方でEV化の流れは依然として確実に進んでおり、車載センサーや小型モーター向けを中心にボンド磁石の用途拡大は続いています。ただし、中国EV市場の成長鈍化や欧州の政策遅延、アメリカの脱EVの動きなど、需要の伸びを抑制する要因も散見されます。こうした追い風と逆風が

交錯する中、2025年の市場は安定的ながらも慎重な姿勢が求められる一年であり、この傾向は今後も続いていくものと考えられます。

2. 各磁石材料別状況

フレキシブルフェライトボンド磁石

2025年の国内生産は重量3,000トン、金額23.5億円(共に前年比変動無し)と推定します。主力の「吸着・マグネットシート関係」「マイクロモーター関係」は昨年比同水準と推測します。どの用途も需要の底(そこ)は脱しつつあるものの世界的な景気減退の影響は未だ継続しているものと思われる。

日系メーカーの海外生産は前年比変動無しの14.5億円と推定します。

リジッドフェライトボンド磁石

2025年の国内生産は重量5,900トン(前年比Δ3%)、金額109億円(前年比Δ3%)と推定します。過去主力であったマグロールはプリントレス化などの影響で大きく需要が減退しており、この傾向はここ数年変わっていませんが2024年対比では大きな変動は無いものと思われる。エアコンなどの家電用途についても前年比での大きな変動はないと推測します。

日系メーカーの海外生産は前年比変動無しで72億円と推定します。

希土類ボンド磁石

2025年の国内生産は重量1,200トン(前年比変動無し)、金額333億円(前年比+10%)と推定します。他の磁石と同様に、世界的な景気減退を背景とした需要の底は脱しつつあるものの、生産量としては2024年とほぼ同水準と思われます。ただし、原料であるレアアースの市況が上がってきているため金額も追隨しているものと推測します。

日系メーカーの海外生産は前年比+10%で497億円と推定します。

【フレキシブルフェライトボンド】

	生産量 (トン / 年)	前年比	生産金額 (百万円 / 年)	前年比
2022 年	3,500	111%	2,700	117%
2023 年	2,800	80%	2,160	80%
2024 年	3,000	107%	2,350	109%
2025 年	3,000	100%	2,350	100%

【リジッドフェライトボンド】

	生産量 (トン / 年)	前年比	生産金額 (百万円 / 年)	前年比
2022 年	6,600	85%	11,700	95%
2023 年	5,800	85%	10,300	88%
2024 年	6,100	105%	11,200	109%
2025 年	5,900	97%	10,900	97%

【希土類ボンド】

	生産量 (トン / 年)	前年比	生産金額 (百万円 / 年)	前年比
2022 年	1,220	85%	34,300	110%
2023 年	1,200	98%	33,600	98%
2024 年	1,200	100%	30,200	90%
2025 年	1,200	100%	33,300	110%

【日系メーカーの海外生産金額】

	フレキシブル	リジッド	希土類	合計
2022 年	1,500	7,700	52,900	62,100
2023 年	1,400	6,800	47,600	55,800
2024 年	1,450	7,200	45,200	53,850
2025 年	1,450	7,200	49,700	58,350